

TUAD IS HERE

●日常の中の芸工大



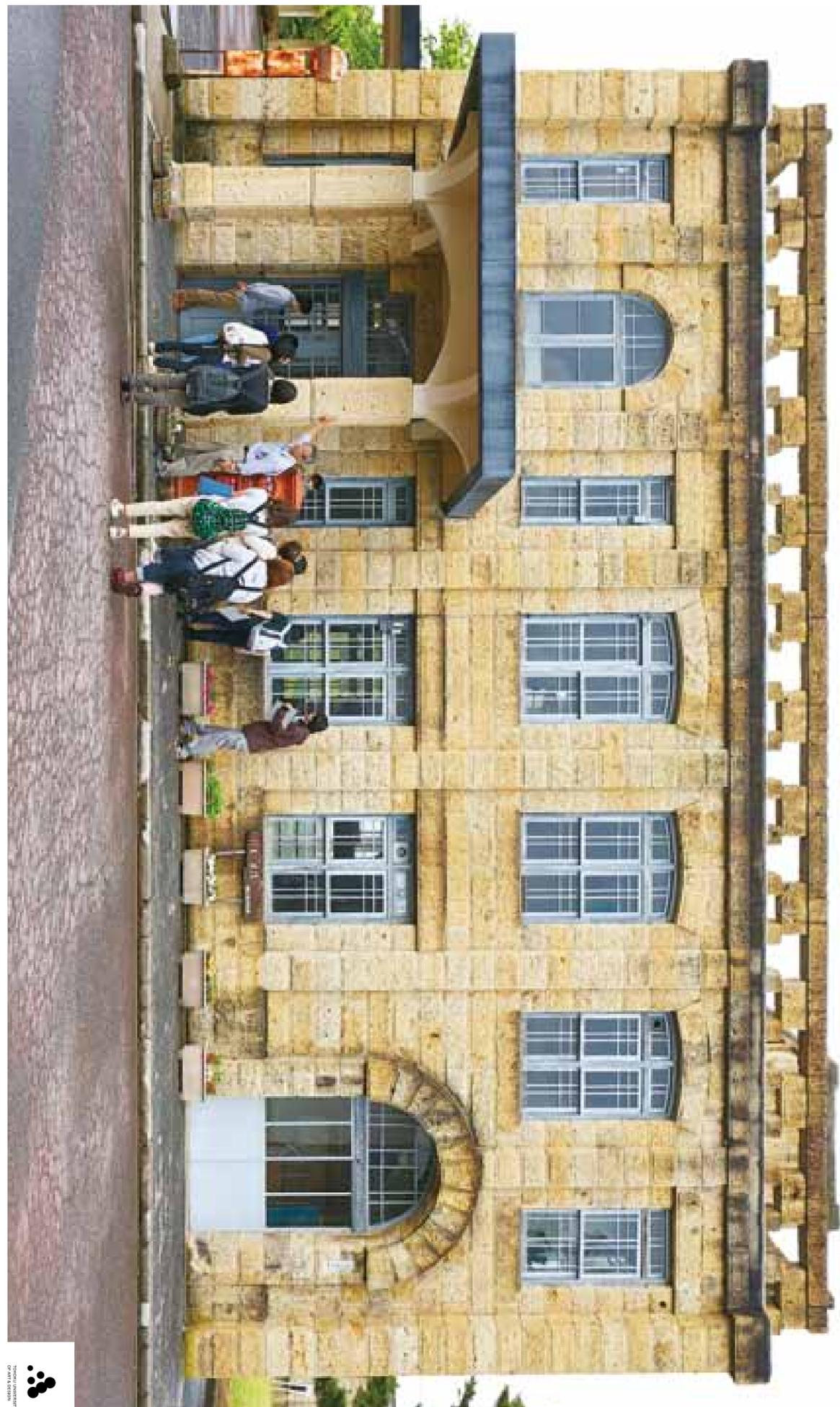
「日本一『さくらんぼ』祭り」で、真っ赤なさくらんぼと北前船の神輿が山形をアビール。

6月23日、24日の2日間にわたり、山形市中心街で開催された「日本一『さくらんぼ』祭り」。美術科総合美術コースでは、山形県の依頼でイベントの目玉となる『さくらんぼ御輿』を制作。学生20名が参加し、アイデアを出し合い、県の担当者との講習会によって選ばれた案の制作に全力で取り組みました。真っ赤なさくらんぼを、実際に農園で使用されている反射材を使った銀色の棒で持ち上げるようにして組んだ形状、勢いよく船出する北前船を象った神輿は迫力十分。当日は、歩行者天国となった本町から七日町にかけて学生と教員が神輿を担ぎ、祭りをより一層盛り上げました。

WEB 学生と教員の取り組みをご紹介します。

g*g

芸術市民とついに創る
芸工大広報誌「ジー・ジー」
Vol.21 SUMMER 2012
東北芸術工科大学



表紙のアート



日常の中に溶け込んだ文化を掘り起こしその価値を新たな世代へつなぎます。

高島町に古くから伝わり、生活に密着してきた高島石。歴史遺産学科の北野准教授は昨年「高島まちあるき」を主催し、高島石の利用実態を調査。地域住民に聞き書きをしています。「地域の人と関わり、ゆっくり歩くことで見える宝物を実感し住民と共有する活動をしている」という北野准教授。参加した学生たちは、日常の風景の中に隠れた価値を見つけています。

WEB 活動に関わる学生と地域住民の声を紹介します。

g*gとは

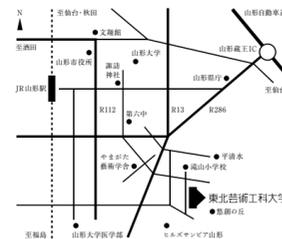
芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もうひとつの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！このデザインがすごい！景観がきれい！こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならず芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。広報室では、「g*g」を置いていただけるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

東北芸術工科大学

【芸術学部】文芸学科、美術史・文化財保存修復学科、歴史遺産学科、美術科[総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸、陶芸、金工)/テキスタイル]
【デザイン工学部】企画構想学科、プロダクトデザイン学科、建築・環境デザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科、メディア・コンテンツデザイン学科
【大学院芸術工学研究科】博士後期課程 芸術工学専攻、修士課程 [芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻(仙台スクール)]
【研究機関】やまがた芸術学舎[共創デザイン室/東北復興支援機構TRSO]、東北文化研究センター、文化財保存修復研究センター、こども芸術教育研究センター、デザイン哲学研究所、東アジア芸術文化研究所

g*g オフィシャルサイト <http://gs.tuad.ac.jp/gg/>

大学周辺マップ



東北芸術工科大学広報誌 g*g
2012年7月11日発行
発行：学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5
東北芸術工科大学広報室
TEL:023-627-2246 FAX:023-627-2185
URL: <http://www.tuad.ac.jp/>
Email: hello-gg@aga.tuad.ac.jp
©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2012
印刷：田宮印刷株式会社

美大 * 宮城県

みやぎのみらい

つながる、つくる。東北のこれから。

山形に位置する東北芸術工科大学は、東北・日本の将来像を形づくるべく、様々な活動を展開。山形県のお隣、宮城県でも、数多くのプロジェクトを進行しています。宮城の未来に繋がるような事例たちから、私たちのこれからも見えてくる気がします。

建築の在り方は、その場所ごとに違うはず。

馬場正尊
[建築・環境デザイン学科准教授]

必要なのは、スタイルに左右されない考え方をすること。

竹内昌義
[建築・環境デザイン学科教授]

竹内昌義 Masayoshi Takeuchi

1962年神奈川県生まれ。東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科教授。1995年にみかんぐみ共同設立。代表作に『Shibuya AX』、『愛・地球博トヨタグループ館』、『伊那東小学校』、『Y150はじまりの森』、『マルヤガーデンズリノベーション』など。著作に『団地再生計画／みかんぐみのリノベーションカタログ』、『別冊みかんぐみ』、『別冊みかんぐみ2』、『脱ファスト風土化宣言』、『未来の住宅』、『原発と建築家』など。

馬場正尊 Masataka Baba

1968年佐賀県生まれ。東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科准教授。2002年に、OpenAを設立し建築設計、都市計画、執筆ほか、メディアや不動産などを横断しながら活動。都市の空地を発見するサイト(東京R不動産)を運営。代表作に、『TABLOID』、『房総半島の連棟』、『勝ちどきTHE NATURAL SHOE STOREオフィス&ストック』など。著作に『R the Transformers 都市をリサイクル』、『新しい郊外の家 RELAX REAL ESTATE LIBRARY』など。

宮城県仙台市のリノベーション事業、
気仙沼市唐桑町の高台移転に、
建築・環境デザイン学科が取り組んでいます。

●竹内昌義教授 × 馬場正尊准教授 対談

馬場: 建築・環境デザイン学科では去年、仙台デザインホームさんとコラボレーションして、仙台市青葉区にある築35年の集合住宅の一部をリノベーションしたんです。学生が提案した5案の人気投票をウェブで行って、1位になったものを施工。発表会当日のうちに4件の申し込みがあるほど大人気でした。

竹内: 学生が設計したものが評価され、建築に関わったものが実際に売られるというのは凄いですよね。

馬場: しかも、それに関わった何人かはその会社に就職もしてたりする。学生と大学、仙台市との持続的な関係性もできてきました。現在は石巻で被災した方の住居として、仙台市の中古物件をリノベーションするという企画も発動しています。

竹内: 日本は2005年に人口のピークを迎え、高度経済成長時代に造ったビルをどう活かしていくかが社会的な課題となっています。既存の空間をただ使うのではなく、どこかを思い切り変えるというリノベーションを行うと、建物に新しい価値観が生まれますね。ちょっとしたことなんですけど。

馬場: 人が何かしている風景が想像できているか、できていないかはかなり大きいですね。R不動産的な視点で見ると、仙台の街には面白い物件が沢山あります。今までリノベーションがあまり行われていなかった仙台で、この活動がきっかけとして、これから新たな広がりになれば良いと思っています。建築だけでなく街づくりから提案している唐桑町の高台移転は、都市部とは違った視点がありますよね？

竹内: 唐桑町は、集落として共同体をどう維持しながら移転できるか、何をどうするのがベストかを住民から引き出す作業をしています。そのために何度も現地へ通っていますが、最近になってやっと思っていることを話してくれるようになってきました。最初は、新たな住居をエコハウスにすると言ってもピンとこない様子で。

馬場: 遠慮もあったでしょうし、コミュニケーションに時間がかかったんですね。

竹内: 打合せが終わってから、ぼそっと本音が出てきたりするんですよ。そういうやり取りの中で住民の方と話ができるようになって、エコハウスはこうあるべきだ、というこちら側の思い込み

がガラガラと崩れていく感じはちょっと面白いですね。「エコハウスはなぜ洋風なんだ、和室が二間続いたエコハウスはないのか」と聞かれた時に「あ、それいいじゃん」と思ったわけです。学生みたいですけど(笑)。昔の日本のライフスタイルは、座敷の奥にまで日射しが入るように工夫したりしてきたわけだから、「日本のエコハウスって何だろう」と考えた時にこの発想は奥が深い、と思い始めました。

馬場: 唐桑町のプロジェクトの興味深いところは、お年寄りのとても素朴なお話と最先端の技術が同時に会って、それによって未来に続く町や家ができることですね。津波は不幸なことでしたが、強引にポジティブに言うと、これからどういう街になるのか、将来像が見られることに期待が持てます。ピカピカじゃないけど、最先端のコンセプトで新しい街が作られようとしていると思うんですよ。

竹内: 住民の方とキャッチボールをしていると、本当にいろいろな発見があります。従来の共同体的な繋がりが大事だと言う一方で、新しい住宅地に対する憧れも少しあるんですよ。そういった矛盾する要望に対して、学生の方が屈託なくズバツと発言して、それが素直に受け入れられたりもして。

馬場: プロジェクトに関わった学生たちが大人になっていくのを感じます。仙台市のリノベーション、唐桑町の人々、社会と関わらる中で、会話のレベルが上がっているのが分かります。とても良い経験になっているのではないのでしょうか。

竹内: 例えば東京で学んでいたら、否応もなく“標準”を教えられることになると思うんです。しかし、建築の在り方はその場所その場所ごとにあるべきで、その必要性はこれらからどんな出てくると思っています。

馬場: 東北でさえ都市も田舎もあるし、気候、人口、積雪量も違ってきますからね。今私たちがやっていることは、スタイルに左右されない所から物事を考えたり、普遍的な姿に辿り着こうとしている側面があるかもしれません。

竹内: 全然派手じゃなくても身近なことをやっているだけで、どこかで世界に繋がっている気がして、そこが面白いですね。



唐桑町高台移転

宮城県北部の唐桑町では、東日本大震災で流出したひとつの地域の高台移転に参画しています。横浜市立大学、神戸大学、東北芸術工科大学との共同プロジェクトで、2011年10月に本格始動。1ヶ月に1回程度のペースで学生と教員が赴き、地元の方の意見を取り入れながら、エコハウスが建ち並ぶ未来の街づくりを進めています。



仙台リノベーション

仙台市青葉区の本町エリアでのようなライフスタイルが考えられるのか。そのストーリーをイメージすることから設計を始め、学生がデザインした5プランをWEB上で公開。人気投票を行い、1位の得票数を獲得したプラン「二人暮らしの家」が実際に施工、販売されました。仙台の都市部でのこれからの住まい方として、今後の展開にも注目です。



トークイベント開催

人口減少が進む一方で、新しい建築の過剰供給が続いている現在の日本。スクラップ&ビルドの時代は終わり、既存の建物をどう活かすのが、重要な問題になっています。そうした中、建物の味を活かしながら空間を大胆に生まれ変わらせる「リノベーション」が、住まいの選び方や都市の機能を大きく変えています。世界的な建築ユニット(みかんぐみ)の竹内昌義と(東京R不動産)の馬場正尊の2人が、これまで手掛けたリノベーションの事例や仙台での可能性を紹介。古い建物をお持ちの方や、これから住まいを探す人、街の再生か活性を考える人、デザインを学ぶ人に向けて、仙台という都市のリサイクルや、これからのライフスタイルについて考えるトークショーを開催します。

●仙台R計画～竹内昌義と馬場正尊が語る都市のリノベーション

日時：7月22日(日) 14:00～15:30(開場13:30)(定員200名/入場無料/予約不要)

会場：せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア

出演：竹内昌義(建築家、建築・環境デザイン学科教授) / 馬場正尊(建築家、建築・環境デザイン学科准教授)

芸術大 * 宮城県



絵画3作品で空間を演出。
エスパル仙台店、社員食堂。

●木原正徳 [美術科洋画コース教授]

美術科洋画コースは、NPO法人東北の造形作家を支援する会(SOAT)からの依頼で、エスパル仙台店にある社員食堂と談話室に飾る壁画を3点制作しました。担当する木原教授が選出した学生5名は、現場に足を運び空間を把握した上でそれぞれプランを提出。いずれ劣らぬ秀作だったため、今回は3名のアイデアを採用し、3つの作品が統一感を持ってひとつの空間に収まるように工夫しました。完成したのは、瑞々しい緑が印象的な「サラダの森」(写真上)、見るだけで心が華やか「フルーツの池」(写真下)、落ち着きとインスピレーションが同居する「白樺の林」。利用者からは、それまで白い壁と向かい合っていた食事の時間が、絵画があることで明るい雰囲気変わったと好評が寄せられました。当初、先方からはヨーロッパの風景のような絵を、とオーダーされたといいます。しかし、木原教授は「学生の感性をもっと信用し、ドキドキするようなものを期待してみよう」と提案。結果、学生ならではのフレッシュな感覚の作品に仕上がりました。今回の制作について木原教授は、「原画の拡大作業ではなく、あくまで絵画として魅力的でなければならないことに学生たちが気づけたことも大きな経験だったと思います」と、振り返りました。

【WEB】制作した5人の学生の声と「白樺の林」をご紹介します。

木原正徳 Masanori Kihara
長野県出身。武蔵野美術大学卒業二紀展(東京セントラル美術館賞、安田火災美術財団奨励賞、田村賞、宮本賞、他)、青木繁記念大賞展(わだつみ賞)、文化庁芸術家海外留学特別派遣(イタリア)など。個展も多数。本学芸術学部長。



山元町再生記録プロジェクト「Lunch Time」
アーティストと学生がドキュメンタリーを制作。

●ジャン=リュック・ヴィルムート [アーティスト]

フランス在住のアーティストのジャン=リュック・ヴィルムート氏と西村麻美氏が監督となり、宮城県亶理郡山元町を舞台にしたドキュメンタリー作品「Lunch Time」を制作。映像学科の学生が中心スタッフとなり、学科の機材を使用して、瓦礫までが津波に覆われた山元町に生きる人々の、過去、現在、未来を描き出しました。作品の内容は、震災当日の記憶や現在の生活の様子、町の再生や原発について住民がどのように考えているかを映像に記録し、草木だけが残る海岸線を背景に、大きなテーブルを囲み食事をとる姿がシンクロするもの。ヴィルムート氏は、「あるものをただ撮ろう、何かを創ろうという発想ではなく、私たちが考えている舞台に立った住民たちと、一緒にパフォーマンスをする感覚で制作しました。何もなくなった場所に、命だけ残った人が来た時に何が起こるのか。舞台を作っているのはフィクションですが、彼らが話したことは本当のことです。この映画を観て環境に対して繊細な感覚を持ち、被災地の方にも勇気と希望を持ってもらえたら」と語っています。西村氏は、「日本で起こったことは世界中で起こり得ること。事実を受け止め、個人レベルで考えていくきっかけになれば」と、山元町の人々の存在が世界中に知られることを願っています。

◎東北復興支援機構TRSO URL: <http://gs.tuad.ac.jp/trso/>

【WEB】撮影の様子、監督や参加学生の話を紹介します。

ジャン=リュック・ヴィルムート Jean-Luc Vilmouth
アーティスト。1952年生まれ。フランス・パリ在住。ヴェネツィア・ビエンナーレなど、大規模な国際美術展にて作品を発表。現代アートの国際舞台で最も注目されているアーティストのひとり。



みやぎのみらい

宮城県の復興へ取り組む仙台銀行の
決意を表現した「どこでも窓口」。

●中山ダイスケ [グラフィックデザイン学科教授]

東日本大震災をうけて、津波被災地や店舗が移転統合した地域の方々の利便性を確保するために営業を開始した、仙台銀行の移動店舗「どこでも窓口」。グラフィックデザイン学科の中山教授は、名称選定のアドバイス、車両外装のグラフィックデザインを担当しました。「どこでも窓口」という名称は、「震災によって傷ついた「ふるさと」の復興のために、きずな・愛によって結ばれた、たすけあい・応援の気持ちを被災地のどこでも届ける、仙台銀行の新しい窓口」というコンセプトのもと選定しました。この名称は、大震災発生時に仙台銀行へ入行した平成23年度新入行員32名から公募。中山教授は「ふるさと復興」を願う新入行員の気持ちをつなぐ名称として「どこでも窓口」を採用し、地域の復興を支援したいという想いを、大漁旗のイメージに込めて車両外装デザインを行いました。仙台銀行のコーポレート・カラーである色とりどりのグリーンを組み合わせ、仙台銀行の略称「仙銀」の2文字を縦に表記したデザインは、見る人に爽やかな印象を与えます。銀行の機能と復興への想いを積み込み、復興途中の宮城県内を走り回る「どこでも窓口」は、地域住民の注目を集め受け入れられています。

◎共創デザイン室 URL: <http://www.tuad.ac.jp/kyoso/>

中山ダイスケ Daisuke Nakayama
1968年香川県出身。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科中退。現代美術家、アートディレクター、(株)daicon代表取締役。1998年第一回岡本太郎記念現代芸術大賞準大賞等の国際展に選出されるなど、展覧会、受賞多数。商品開発、コンセプト提案など、美術以外の活動も幅広い。



宮城県美術館、ダニ・カラヴァンの
「マアマン」保存修復を行いました。

●藤原徹 [美術史・文化財保存修復学科教授]

美術史・文化財保存修復学科の藤原教授は、宮城県美術館から文化財保存修復研究センターへの依頼を受け、ダニ・カラヴァンの作品「マアマン」の保存修復を学生たちと共に手がけました。日時計となる柱の洗浄、劣化したコンクリートの気泡充填や、天井部分の防水、撥水加工などの作業には学生も積極的に参加。どのように手を動かし、どこまで手を入れるか、現場での体験を通して保存修復の定義を再確認しました。震災以前から多くの傷ついた美術品に向き合ってきた藤原教授は、「時代と共に管理が行き届かなくなった地域の文化財も、震災で傷ついたものも、総合病院といえる芸工大のこのセンターで保存処置を行っています。専門設備が整った芸工大が東北にあった、と言われることはとても嬉しい。ただ、災害に遭った美術品の全てを元通りにすることが正しいとは限らず、記憶としてそのままに留めたいという人もいます。修復が必要かどうか判断するには長い時間が必要なものもあるのです。それらの意見を汲むことも大切な過程です」と、修復士としての考えを語りました。美術や文化史に通じ、科学の知識を持った技術者が、的確な考えを持って保存修復を行っていくことができるシステム作りは、各地域でのこれからの課題となっています。

◎文化財保存修復研究センター URL: <http://www.iccp.jp/>

藤原徹 Toru Fujiwara
広島県出身。東京造形大学卒業、フランスツール美術学校修士課程修了。1996年、フランス立保存修復士資格認定合格。佐藤忠良記念財団を経て、宮城県美術館に勤務。東京国立博物館、国立西洋美術館の客員研究員にも従事。彫刻の展覧会コンサバターとしても活躍。



七大陸最高峰登頂を達成した写真家で、旅の中から自身の目で見えたものを綴るエッセイストとしても活躍している石川直樹さんの写真展、「やがてわたしがいる場所にも草が生い茂る」をやまがた芸術学舎で、「異人 the stranger」を本館7階ギャラリーで、同時開催しました。

「やがてわたしがいる場所にも草が生い茂る」では、東日本大震災の2日後には青森県・三沢空港に向かったという石川さんが、八戸、宮古、大船渡と、車と徒歩で南下しながら撮った写真を中心に展示しました。そこに写っているのは、倒壊した家、打ち上げられた船、小さく佇む人、そこに降り積もる雪。「写真は、世界の端的な模写、世界の断片。震災の光景を目にした時、何ひとつこぼれ落ちてはいけな気がして、主観でねじ曲げた表現ではなく記録として最大限そのまま撮りました」という石川さん。展示している写真の中で、万里の長城に例えられたほど長大な防潮堤を越えて津波が押し寄せた宮古市田老地区は、3ヶ月ごとの時間経過を追って撮影し、記録性が際立ったものになっています。これについて石川さんは、「時間経過を見せていくことで、10年後30年後に新しい役割を担う記録になると思います。3ヶ月の間にもどんどん草は生えていきます。見続けていくことで、その果てに何が見えるのか、どういう世界が現われるのか、今後もずっと記録し続けます」と語りました。

一方、「異人 the stranger」では、沖縄県西表島のミルク、宮古島のパーントゥ、鹿児島県石島のゴゼ、岩手県大船渡市のスネカなど、海の彼方からやってくる来訪神である異人と、異人を迎える儀礼を撮影したものを展示。6月29日のギャラリートークでは、9つの異人について特徴や儀礼の内容、現在の地域の人との関わりや変容について石川さんが紹介しました。「やがてわたしがいる場所にも草が生い茂る」でのギャラリートークで、自然に対抗せず、自然に対する畏怖を持ちながら、得体の知れないモノに対して柔らかく受け止め吸収していく生き方が、日本にも昔からあることを指摘していた石川さん。何をもちたすかもわからない異人を家にあげ接待する儀礼を生き生きと写した写真は、自然と人との関係性の表れとして訪れた人々の心に強く語りかけているようでした。なお、写真展「やがてわたしがいる場所にも草が生い茂る」は7月末まで、やまがた芸術学舎で開催しています。詳しくは11ページをご覧ください。

石川直樹 Naoki Ishikawa
1977年、東京出身。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。2000年、Pole to Poleプロジェクトに参加して北極から南極を人力踏破、2001年、7大陸最高峰登頂を達成。行為の経験としての移動、旅などをテーマに作品を発表し続けている。2011年に第30回土門拳賞受賞。



「異人 the stranger」新潟展

会期:7月14日(土)～12月24日(月・祝)
会場:開港都市にいがた水と土の芸術祭2012
旧笹川家住宅(新潟県新潟市南区)
主催:水と土の芸術祭実行委員会
URL:<http://www.mizu-tsuchi.jp/>

芸工大 * 石川直樹展

自然と人の在り方を問いかける 1つの視線による、2つの石川直樹写真展

「やがてわたしがいる場所にも草が生い茂る」
「異人 the stranger」を同時開催



上:やまがた芸術学舎でのギャラリートークの様子。写真家として絶えず現場に身を置き、身体を通して事実を理解していくメンタリティの重要性について多く語りました。下:本館7階でのギャラリートークでは100名もの参加者が、石川さんの話に熱心に耳を傾けました。



「自然の力の大きさを感じました。石川さんの写真は、メッセージが全面に押し出されているわけではありませんが、どうやって自然と上手につき合っていくかを考えさせられます。」本多さん(神戸市)



「民族的儀礼はナマハゲくらいしか知らなかった中で、「異人」全てが日本の写真であることに驚きました。人や家、車にまで泥を塗り付けるパーントゥの存在が印象に残りました。」大泉さん(山形市)



田中研一 Kenichi Tanaka(写真左)
建築家。建築・環境デザイン学科卒業。株式会社シェルターに勤務。住宅設計を専門にしながらも、自然景観に配慮した町づくりなど多くのプロジェクトに積極的に参加している。廣瀬准教授とチームを組んだ案件は5件。

廣瀬俊介 Shunsuke Hirose(写真中央)
1967年、千葉県出身。ランドスケープデザイナー。風土形成事務所主宰、建築・環境デザイン学科准教授、岩手大学大学院工学研究科デザイン・メディア工学専攻非常勤講師。公園、街路、企業施設の外構緑地、河岸その他の設計を手がける。



山形エコハウスの表庭で、実際に使用している石や土、植物を見ながら、施工方法や意図を伝える廣瀬准教授。熱心にメモをとる田中さんと地元建築家の五十嵐さん。ちなみに田中さんは、廣瀬先生との協同で「田横尾邸(現・東の杜資料館)利活用基本計画策定委託事業」の設計提案競技で最優秀賞を受賞。実施計画を進めている。

OB * 教授

仕事に対する信頼感が育む 継続的な関係性



建築・環境デザイン学科

衣・食・住という言葉の通り、毎日の暮らしに欠かせない住まい。建築・環境デザイン学科では、一人ひとりを持っている「こんな家に住みたい」や「こんな暮らしをしたい」を実現するために必要な知識と技術、そして美意識を育みます。部屋の模様替えといった身近な部分から建築、さらには地球環境まで、未来を見据え幅広く横断的に学んでいきます。エコハウスの建設やサステイナブル10の提言、山形R不動産など実践的な取り組みも幅広く展開しています。



卒業生に期待するのは、山形に文化を育む人になること。互いのリスペクトが町を豊かに。

田中研一さんは、建築・環境デザイン学科卒業後、東京で建築設計の経験を積み、現在は山形の株式会社シェルターで住宅建築の設計を中心に活躍しています。廣瀬准教授とは大学での接点はなかったものの、卒業後多くのプロジェクトを共同で手がけています。取材当日、廣瀬准教授は田中さんと山形エコハウスを訪れ、田中さんが設計協力をしている県内のある公共広場について、植物の選び方や石の積み方などをアドバイス。田中さんは廣瀬准教授は田中さんについて、「彼の最初の就職先が私の友人の会社だったこともあり、田中さんの作品や仕事は知っていました。考えが合うデザイナーさんとはなかなか出会えないものですが、田中さんは実直に仕事される信頼がおける人です」と語りました。「卒業生と継続した関係性を築いていけるのは、芸工大の特長と言えるかもしれませんね。直接教えていない卒業生でも、積極的に相談にきますから。山形には東京と比べて現代文化の面では多様性が足りないところがあり、学生が目にするものの幅が限られてしまっています。地域のデザイナーが本当の意味で創造的な仕事をして、それを打ち破ってほしいですね。卒業生には、山形なり、東北の他の地域なりのデザイン方法を探求して、国内外を問わず通用する

仕事をしてくれるよう期待しています」という廣瀬准教授。一緒に仕事をする中で地元の若い建築家を鍛え、山形をより良い町にする人材を育てることを考えています。また、設計協力をしている公共広場についても、「住んでいる人が暮らしやすい家造れる田中さんなら、ベンチを置いただけのポケットパークではなく、人が集い地域に根付いた場所が造れるのでは」と期待を寄せています。田中さんは廣瀬准教授の言葉を受け、「その責任と期待に応えたいです。先生のように環境を読み解いて設計される方は少ないので、その手法を身につけたいという気持ちがあります。私は建築設計の分野が専門ですが、外部を考える時には先生だったらどう考えるかを想像します。地形、気候、生態系など広い範囲から暮らしを捉えるために、実際に歩いてみるのは先生の影響ですね。分野は違いますが」と想いを伝えました。山形エコハウスでの打ち合わせを終えた2人は大学に戻り、廣瀬准教授の実際的なアドバイスをふまえて、さらに濃密な打ち合わせに入るべく図面を広げました。それぞれ専門分野を持ったプロフェッショナルとして、OBと教授の関係が現在進行形で育まれています。

NEWS & TOPICS



1 山形で、より豊かな教育を。酒田光陵高等学校と協定書調印

教育交流を目的として山形県立酒田光陵高等学校と教育交流協定を締結し、中山英行校長先生をお招きして交流協定書の調印式を5月16日に行いました。本学の教員が高校へ向う出張授業や、高校生を本学へ招く特別講義などを今後実施予定です。高等学校との交流協定の締結は、山形県立長井工業高等学校(2008年2月7日締結)、山形県立山形工業高等学校(2008年8月28日締結)に続き3校目です。
◎教育交流の概要
1) 教育実践・研究に関する大学・高校双方の情報交換および交流
2) 大学の教員等の高校への出張講義や遠隔講義
3) 高校の生徒の大学での講義等の聴講
4) 大学の学生の高校での教育実習や模擬授業
5) その他、大学・高校で協議の上同意した事項
※山形県立酒田光陵高等学校は、山形県立酒田北高等学校、山形県立酒田工業高等学校、山形県立酒田商業高等学校、酒田市立酒田中央高等学校が統合し、2012年4月9日に開講した高校。



2 しょうじまさるさんが審査員長賞に「トーキョーワンダーウォール公募2012」

大学院修了生のしょうじまさるさんが、東京都が主催する「トーキョーワンダーウォール公募2012」の立体・インスタレーション部門で審査員長賞を受賞し、5月26日～6月17日に東京都現代美術館で開催された作品展に出品しました。来年度には東京都庁での展示も予定されています。
URL: <http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/wonderwall/>



被災した子どもたちを支援する 助成プログラムにTRSOの活動が採択

東北復興支援機構(TRSO)は、「JICE東日本大震災復興支援プログラム メットライフアリオ社員寄付子ども支援プログラム」の助成先21団体のひとつに選出されました。このプログラムは、東日本大震災と原子力発電所事故に伴い、被災した子どもたちを支援し、子育てに関わる取り組みを応援する目的で、2011年12月から実施されています。◎事業名:キッズ・アート・キャンプ山形 ◎期間:2012年4月1日～2013年3月31日 ◎金額:1,000,000円 TRSO URL: <http://gs.tuad.ac.jp/trso/>



「文房具アイデアコンテスト」で大屋彰さんの作品が優秀賞を受賞

カンスター文具の「第17回文房具アイデアコンテスト」で、プロダクトデザイン学科3年 大屋彰さんの作品「万華～BANKKA」が、応募総数4,645作品の中から優秀賞を受賞。「万華～BANKA」はクーペーペンを削った層を利用することで、クーペーペンを収納する筒が万華鏡としても楽しめるデザインの提案です。◎主催:カンスター文具株式会社 URL: <http://www.sun-star-st.jp/>



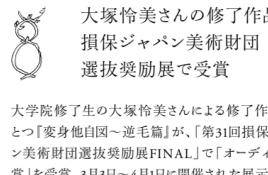
映画「王様とボク」 監督・脚本に前田哲映像学科准教授

映画監督の前田哲映像学科准教授が「王様とボク」の映画監督と脚本を手掛けた。事故が原因で12年間眠り続けた主人公が突然目覚め、6歳の心のままに友人たちと再会する物語で、2012年9月から全国順次公開予定です。この作品は、外苑キャンパスで一部撮影を行っており、映像学科生も出演しています。
URL: <http://www.o-boku.com/>



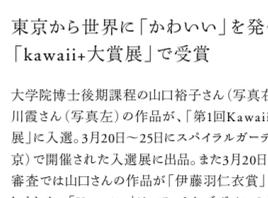
子どもの世界から 理想の環境デザインを考える

建築・環境デザイン学科では、理想の環境デザインを考える機会としてドキュメンタリー映画「風のなかで～むしのいのち くさのいのち ものいのち」の上映を6月6日に開催。中瀬幼稚園(東京都杉並区)の園児達の1ヶ月間から、変わらない「子どもたちだけの世界」から見えてくる大切なものを問いかけました。また、当日は同幼稚園園長の井口佳子氏も出席し来場者の方々と意見を交わしました。
URL: <http://www.kazenonakade.com/>



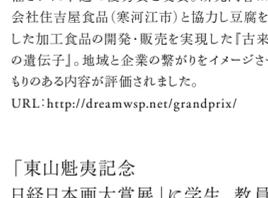
大塚怜美さんの修了作品が 損保ジャパン美術財団 選抜奨励展で受賞

大学院修了生の大塚怜美さんによる修了作品のひとつ「変身他回～逆毛編」が、「第31回損保ジャパン美術財団選抜奨励展FINAL」で「オーディエンス賞」を受賞。3月3日～4月1日に開催された展示に出品されました。◎主催:損保ジャパン東郷青児美術館、産経新聞社 URL: <http://www.sompo-japan.co.jp/museum/>



東京から世界に「かわいい」を発信 「kawaii+大賞展」で受賞

大学院博士後期課程の山口裕子さん(写真右)と石川霞さん(写真左)の作品が、「第1回Kawaii+大賞展」に入選。3月20日～25日にスパイラルガーデン(東京)で開催された入選展に出品。また3月20日の公開審査では山口さんの作品が「伊藤羽衣賞」を受賞しました。「Kawaii+」は、アートとデザインの視点で「かわいい」を東京から世界に発信する公募展です。
URL: <http://www.kawaiiplus.jp/kawaii.html>



「東山魁夷記念 日経日本画大賞展」に学生、教員が入選

日本経済新聞社公益財団法人日本美術協会と上野の森美術館が主催する「第5回東山魁夷記念日経日本画大賞展」で、三瀬夏之介美術科准教授「山ツツジを探して」が選考委員特別賞を受賞。併せて日本画コース卒業生の久保歩さんの作品「フアンデーション」と長沢明美術科教授の作品「The Sea Mountain」が入選しました。作品は、5月19日～6月3日に上野の森美術館で開催された大賞展に出品されました。
URL: <http://www.ueno-mori.org/>



おしどりミルクケーキの姉妹品 「サクサクミルクチップ」リニューアル

総合美術コースでは、菓子製造メーカー(日本製乳株式会社)(高島町)から、幅広い層をターゲットにした商品開発の依頼を受け、「サクサクミルクチップ」のパッケージとPOPのデザイン、リーフレットのデザインを行いました。パッケージデザインは小川牧さんのアイデアが採用。6月には「Oshidori MILK CHIP濃厚ベニヤ」も同じデザイン展開として新発売されています。◎販売価格:1袋200円+税 URL: <http://www.nihonseinyu.co.jp/sakusaku/>



世界に飛躍する才能 高谷廉さん「JAGDA Awards 2012」新人賞

彫刻コース卒業生でグラフィックデザイナー兼アートディレクターとして世界的に活躍する高谷廉さんが、社団法人日本グラフィックデザイナー協会が主催する「JAGDA Awards 2012」で新人賞を受賞し、6月5日～29日にクリエイションギャラリーG8(東京都)で開催された「JAGDA新人賞展2012 池澤樹・小野勇介・高谷廉」に出品。またニューヨーク Art Directors Club(ADC)の90年の歴史を誇る国際的なコンペ「ADC 91ST ANNUAL AWARDS」のポスターデザイン部門でも銀賞を受賞しました。
JAGDA URL: <http://www.jagda.org/>
ADC URL: <http://www.adcglobal.org/>
AD&D URL: <http://ad-and-d.jp/>



企画構想学科の学生7名が フラワー長井線ガイドブックを制作

企画構想学科4年の学生7名が、平林千春企画構想学科教授の演習として、フラワー長井線の利用促進ガイドブック「フラワー長井線ソラテツハンドブック」を企画し、制作。山形鉄道および株式会社ウエザーニューズ社と協力して、鉄道マニアだけでなく気象マニアも楽しめる全国でも珍しいローカル鉄道情報誌で、2,000部を無料配布しました。◎参加学生: 庄司里/佐藤有希/梅木晴日/伊藤早紀/舟山奈緒子/星智城/松田萌 ◎配布場所: フラワー長井線有人駅、車内 URL: <http://www.flower-liner.jp/>



平成24年度保護者懇談会と 就職に関する講演会を実施

6月9日に開催した保護者会懇談会では、保護者と大学教員との懇談会のほか、就職に関する講演会を実施。510名の保護者の方にご参加いただきました。講演会へは株式会社リクルートの専門家をお招きし、「今、保護者にできるキャリア支援」と題したお話を頂戴しました。9月29日、30日に東京と仙台でも開催されます。詳しくは11ページをご覧ください。



伝統と現代をつなぐ動物技芸 東北ルネサンス「THE 猿まわし」

東北文化研究センターでは、山口県光市の無形民俗文化財(周防猿まわし)をお招きし、「THE 猿まわし 伝統と現代 輪の中はおどきの国」を6月6日に開催しました。能や狂言、歌舞伎と並ぶ伝統的な動物技芸として、2匹の猿の演技や芸人とのやりとりを披露。山形市内の園児を含む1,000名を越える方にお越しいただきました。◎芸装: 愛吉/Qたちろ、芸人: 源太/順平



東の麓酒造有限会社とコラボ 日本酒お披露目会を開催

田中範男企画構想学科教授が主催するチュートリアル「広告ラボ」の学生、中山ダイスケグラフィックデザイン学科教授やその学生有志15名が、東の麓酒造有限会社から依頼を受け、日本酒のネーミングとラベルデザイン、プロモーションを担当。「つや姫 など」で、2月27日に発売され、好評を得ています。またフランス料理で「つや姫 など」でも楽しむ会を4月10日に「BISTRO Le Parc」(山形市)で開催し、その美味しさを味わいました。◎販売価格: 300ml瓶 500円(税別) / 500ml瓶 800円(税別)

NEWS & TOPICS



700名の観客を魅了 「第10回伝統館新能」

「第10回伝統館新能」を5月14日に水上能楽堂「伝統館」で開催。日本を代表する能楽師の観世鏡之丞先生や山本則重先生らが、「源平實勢記」を語る狂言「文武」と、仇義経・弁慶主従に平知盛の怨霊が襲いかかる能「船弁慶前後之替」を演じ、約700名の観客を魅了しました。◎主催: 東北文化研究センター



七尾旅人さんの楽曲企画「songQ」 サイトウケイスケさんがジャケット制作

大学院修了生で総合美術コース副手のサイトウケイスケさんが、ミュージシャンの七尾旅人さんのTwitterによる楽曲制作企画「songQ」のジャケットイラストとTシャツのイラストを担当しました。またサイトウケイスケさんは、白鷹町文化交流センターAYu:M(あゆむ)で開催「CRIER FLIER(クライヤー フライヤー)」を開催予定です。ご来場ください。◎「CRIER FLIER」7月18日(水)～8月5日(日) / 一般200円 URL: <http://www.tavito.net/d/>

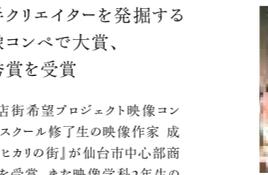


仙台の新たな可能性を可視化する オリジナル映像作品を上映

大学院仙台スクールでは、コンテンツ・プロデュース領域修了生3名がそれぞれに監督した映画を5月16日に上映。いずれも仙台市内をロケ地を選び、見慣れた風景を用いながらも日常生活の価値を引き立てるオリジナルストーリーと構成感の高い映像で監督独自の映像世界を表現しました。◎神棒さやか「悲鳴の森で」(2011年、10min) / 梶原雄大「再生の音色」(2012年、40min) / 成田啓吾「Milky Way」(2012年、70min) URL: <http://www.tuad.ac.jp/sendaisc/>

15 人が集うことで生み出されるチカラ、企画実現を学ぶ講座

東京企画構想学舎では連続座学形式の「企画12社セミナー」と、実践演習形式の「企画実現学科」を実施します。「企画12社セミナー」では、人が集うことで生み出されるチカラを学び、それらが育まれるプロセスを紐解きます。「企画実現学科」では、「PC・スマートフォン向けアプリ企画・開発」分野に着目し、「企画をカタチに(=実現)」することを目指します。さらに講座受講生に対しては、株式会社オレンジ・アンド・パートナーズが中心となり、コミュニティ「Orange Creative Lab」を創設。人材とビジネスのマッチングを展開予定です。



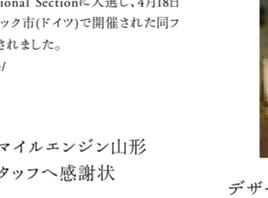
22 若手クリエイターを発掘する 映像コンペで大賞、優秀賞を受賞

「仙台市中心部商店街希望プロジェクト映像コンペ」で、大学院仙台スクール修了生の映像作家 成田啓吾さんの作品「ヒカリの街」が仙台市中心部商店街部門で大賞を受賞。また映像学科2年生の早坂文さんが制作した作品「希望」も優秀賞を受賞しました。「鎮魂と未来-希望」をテーマにした映像で仙台中心部の復興をアピールし、若手クリエイターを発掘するコンペで、作品は「仙台なびづく」(仙台市青葉区)で公開されました。◎主催: 仙台市中心部商店街希望プロジェクト実行委員会 URL: <http://saru-labo.sakura.nc.jp/reqmieu/>



注目されるエコハウスへの 取り組み「新建築」 住宅特集に掲載

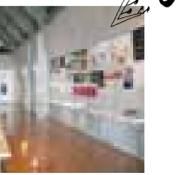
建築・環境デザイン学科によるエコハウスの取組みが、「新建築」住宅特集(2011年12月号)の特集に掲載。「山形エコハウス」(山形県)や「HOUSE-M」(山形県)、「オルタナハウス蔵王」(宮城県)が20ページにわたり紹介されました。また同社のWEBサイト「新建築online」では動画を視聴できます。◎販売価格: 1,905円+税 URL: <http://www.japan-architect.co.jp/jp/>



安達裕さんのCGアニメ作品が 「European Media Art Festival」で入選

映像コース卒業生の安達裕さんのCGアニメーション作品「Landscape」が、「European Media Art Festival」のInternational Sectionに開催し、4月18日～22日にオスナブルック市(ドイツ)で開催された同フェスティバルで上映されました。
URL: <http://www.emaf.de/>

また、同じく外苑キャンパスを舞台とする東京芸術学舎では「じぶん学-自分のなかに非凡を見つけるための連続講座」(全13回/2012年7月～12月)を開講。横尾忠則氏、千住博氏などのプロフェッショナル13人を講師に連続講座を開催します。梶昇氏による体験型ワークショップも導入し、「自分解説」のオガを提供します。ただ今、受講者を募集中です。
◎会場: 外苑キャンパス 東京企画構想学舎 URL: <http://gaiken-tokyo.jp/kikaku/>
東京芸術学舎 URL: <http://gakusha.jp/tokyo/>



デザインを考え、感じ、伝える。学生たちの 「GRAPHIC PRESENTATION 2012」展

グラフィックデザイン学科3、4年の学生121人による合同展「GRAPHIC PRESENTATION 2012」展を本館7階ギャラリーで5月18日～27日に開催。グラフィックデザインや日々のコミュニケーションを通じて、日常生活のように自然にデザインを“考える”“感じる”“伝える”ことを学ぶ学生たちのイラストレーションやポスター、立体作品、パンフレットなど、多種多様な選りすぐり作品、約200点を展示しました。
BLOG: <http://tuadgdp2012.blog.fc2.com/>



27 牧野広大さんが奨励賞を受賞 「日本ジュエリーアート展」

大学院修了生の牧野広大さんが、「日本ジュエリーアート展」で奨励賞を受賞。5月12日から7月2日にかけて、上野の森美術館(東京都)、伊丹市立工芸センター(兵庫県)、国際デザインセンター・デザインギャラリー(愛知県)で開催された巡回展に出品されました。◎主催: 公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会 / 伊丹市立工芸センター URL: <http://kouдай27.jimdo.com/>



28 デザセン2011優勝校チームが NHK Eテレに出演

デザセン2011で優勝した有田工業高等学校の「あなたのおうちに、開局! 選挙チャンネル」チームが、5月31日に放映されたNHK Eテレの「オトナへのピラTV」に出演。野田政権が打ち出した「選挙権年齢20歳から18歳への引き下げ」をテーマにした内容で、10代の若者が考えた現在の政治に対するアイデア提案として紹介されました。
番組公式URL: <http://www.nhk.or.jp/otona/>
デザセンURL: <http://www.tuad.ac.jp/hiddenchamp/>

陶芸講座：入門編

日常使いできる小物づくり [全5回]

+art

東北芸術工科大学
生涯学習プログラム



写真上：お互いの作品に触れることが刺激になり、和やかな雰囲気も。受講者同士の交流が新たな感性の扉を開きます。初心者の方が楽しんで陶芸ができるように、担当講師が丁寧に指導。写真左下：それぞれが制作に集中する。明るく静かな土曜日の午後のひととき。大学の充実した設備を使うことができるのも魅力のひとつです。写真右下：絵付けが一番の楽しみだったという方が多かった本講座。白磁に映える鮮やかな上絵で、作品の完成度が高まります。受講者は、オリジナルの器が食卓に並ぶことを楽しみにしていました。

「陶芸に興味はあるけどきっかけがない」「上手にできるか不安」という方のために、入門編の陶芸講座を開講しています。この講座で制作するのは、日常の食卓で使うことができる箸置きや小皿。全5回の講座の中で、最初に石膏型による道具をつくり、2回の粘土による成型と1回の軸掛けの後、最後に上絵具で自由に絵付けを行っていきます。「石膏型を使用するので、初めての方でも安心して制作できます。同じ形のものを量産できるので、家族の分まで持って帰られるのも好評です。自分が作ったものを実際に使い、陶芸の楽しさを感じてほしいですね」と語るのは、講師の星野さん。最終日の絵付けでは、ニカワやフノリでコーティングした陶器の上から、呉須や上絵の具で絵柄を描いていきます。受講者は、講師のアドバイスで絵の具の濃さを調整しながら、注意深く筆を乗せ、それぞれの作品に彩りを与えていきました。中には、お孫さんのためにアンパンマンのかわいい絵柄を描いた方、顔のようなオリジナリティ溢れる絵柄を描いた方、量産した箸置きに様々な模様のバリエーションをつけて描いている方などがいて、この講座の自由なスタイルを楽しんでいるようでした。普段の生活に合うシンプルなデザインの食器を制作していた、受講者の長谷川さんは「何か習い事をしたいと思っていたところ、タイミング良く初心者向けの講座があったので申し込みました。設備や先生がそろっているのでもていまいです。まだ早いかもしれませんが、いずれはロクロにも挑戦したいです。絵画コースもいいですね」と、生涯学習に意欲を示しました。講師の丹羽さんは、「最初から完成形を考えきっちり作る人もいれば、作りながら考えている人もいて、完成品に個性が滲み出てくるので教えていて面白いです。絵付けという、絵が描けないとダメなのでは、と思われれるかもしれませんが、そんなことはありません。好きな色を点々と乗せていくだけでも陶器に表情が出るんですよ」と、陶芸の楽しさを笑顔で伝えました。



「皿と箸置きの二種類を予定していましたが、みなさんコツを掴んで慣れるのが早く、作品数が増えていきました。プレゼント用に沢山つくっている方もいます」星野友里講師（工芸コース副手）



「陶芸の手法について一つひとつ説明した時に、理解して完成に近づくことに喜びを感じてくれるので、指導しているこちらも新鮮な気持ちになります」丹羽真弓講師（陶芸家）



「自分の部屋に合うように、ランチョンマットとおそろいの絵柄にしました。雑貨屋で小物を見る時も、デザインの商品になるかもしれないと思いながら見るようになりました」長谷川さん（山形市）

毎日の暮らしの感性をより豊かに。東北芸術工科大学の生涯学習。

東北芸術工科大学の生涯学習プログラムは、アートを身近に感じたい、もっと深く文化を学びたい、そんな気軽な思いから始められる講座です。下記の2012年度前期講座のお申込みがまだ可能です。詳しい資料を無料でお送りしておりますので、お気軽にご請求ください。

◎陶芸講座「楽焼き・野焼き」 申込締切：8月9日（木）

◎臨床美術士養成講座4級取得コース（秋） 申込締切：8月24日（金）

◎臨床美術講座「絵は誰でも描ける」 申込締切：8月24日（金）

◎臨床美術リカレント講座（秋） 申込締切：9月7日（金）

東北芸術工科大学 生涯学習プログラム
〒990-9530 山形市上楨田3-4-5
TEL ☎：0120-25-8160
（受付：月～金 9:00～17:30 ※土・日・祝休み）
FAX ☎：0120-41-2154
URL：http://www.tuad.ac.jp/plusart/



EVENT SCHEDULE

芸工大 * You



「8・8」では、在学生や卒業生の方からのイベントなどの告知や、受取情報をお待ちしております。広報室へお気軽にご連絡ください。また、日程や掲載内容は変更になる場合がありますので、HPなどで事前にご確認願います。

6.1→7.31

石川直樹展、7月末まで

写真家の石川直樹氏が、震災後の風景の変化を捉えた写真展「やがてわたしがいる場所にも草が生い茂る」は7月末までの開催です。
●石川直樹写真展「やがてわたしがいる場所にも草が生い茂る」
会期：6月1日（金）～7月31日（火）10:00～17:00 / 日曜休廊
会場：やまがた藝術学舎（山形市松見町17-1）

7.18→7.29

いつもと違う芸工大。Lighting object

工芸コースとテキスタイルコースの3年生が、自らの専攻素材に他素材を組み合わせ、ダイナミックかつ魅力的に彩る作品を生み出しました。昼はディエールが際立ち、夜は作品から放たれる光が幻想的な空間を生み出す作品を、どうぞお楽しみください。
●Lighting object 2012（ライティングオブジェクト）
会期：屋内7月18日（水）～25日（水）/ 屋外7月18日（水）～29日（日）9:00～21:00
会場：本館1階および屋外前
※作品を引き取れる里親制度もあります。
○点灯式：7月17日（火）17:00 本学本館階
○公開講評会：7月25日（水）14:00～17:00 新実習棟Aプロトタイプ

7.22

竹内昌義×馬場正尊トークショー

世界的な建築ユニット（みかんぐみ）の竹内昌義教授と（東京R不動産）の馬場正尊准教授が、リノベーション物件の事例や仙台での可能性を紹介。都市のリサイクルやライフスタイルを考えるトークショーです。詳細は3ページに掲載しています。
●仙台計画～竹内昌義と馬場正尊が語る都市のリノベーション
日時：7月22日（日）14:00～15:30（開場13:30）入場無料 / 予約不要
会場：せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア

7.23→7.28, 7.31→8.4

「ASK? 映像祭2012」で展覧開催

今年で8回目となる映像祭で、公募によって今後を担う作家を発掘し、多様なジャンルの映像作品を紹介する「ASK? 映像祭2012」。この中で、映像学科副手の吉畑綾さんが展覧を開催します。
●2011年度コンペティション大賞受賞者展（吉畑綾 個展）
会期：7月23日（月）～28日（土）11:30～19:00（最終日17:00まで）/ 7月31日（火）～8月4日（土）開廊時間未定
会場：art space kimura ASK?（中央区京橋3-6-5木邑ビル）一部有料
TEL：03-5524-0771
URL：http://www.kb-net.com/ask



7.28, 7.29

夏のオープンキャンパス開催

入試相談や模擬授業はもちろん、各学科・コースの在学生作品展示や実技体験、学生・先生との交流など沢山の企画を開催します。事前の申込不要、途中の入退場自由、東北各地からは無料シャトルバスの送迎もあります。大学の見学や学食での食

事だけでも、お気軽にご来場ください。

●夏のオープンキャンパス
日時：7月28日（土）・29日（日）10:30～16:00（受付10:30～）
会場：東北芸術工科大学

7.28→9.17

ひじおりの灯で夏の夕涼み

美術科の学生を中心に34個の灯ろる絵を月山和紙に描き、肘折温泉の通りに展示し、夜を優しく灯す恒例のアートイベントを開催します。
●ひじおりの灯
会期：7月28日（土）～9月17日（月）
会場：大蔵村肘折温泉街
点灯時間：18:00～20:00
○絵語り・夜語り：8月11日（土）18:30～21:30

7.29

こども芸大、夏の1日体験入学

夏ならではの水遊びや虫取りといった遊び、ふれあい遊びやお昼ご飯（軽食）づくりなど、ご入学をお考えの方を対象に、こども芸術大学の活動を体験していただける1日です。
●オープンキャンパス「1日体験入学会+入学説明会」
日時：7月29日（日）10:00～12:00
会場：こども芸術大学
対象：入学をご検討の平成21年4月2日～平成22年4月1日生まれの親子
持ち物：服装：帽子、コップ、タオル、着替え、汚れてもいい服装
お申込み：7月25日（水）までに電話かメールでこども芸術大学へ

8.1

東インド個展舞踊に触れる

日印国交樹立60周年となる今年、記念事業の一環として、本学で東インド古典舞踊公演を開催することとなりました。タイトルのMOKUSHA（モクシャ）とは、サンスクリット語で解脱を意味します。この公演から、インドが神々の信仰の国と言われる所以を感じ取って頂けると幸いです。
●東インド古典舞踊オリシードダンス公演「ラファール・アチャリヤ」MOKUSHA「モクシャ」
日時：8月1日（水）18:00～19:45
会場：水上能楽堂「伝統館」
出演：ラファール・アチャリヤ、篠原美子
入場協力金：一般1,000円（本学学生、教職員、高校生以下無料）

8.3→8.5

芸工大でアートを体感。今度は演劇

南相馬の子どものご家族が、芸工大でアートを体感する3日間、ウクライナ民話「てぶくら」の演劇を、本学教員とファッションデザイナー、ダンサー、学生が、ご家族と一緒に創作。最終日にはお披露目の公開公演も実施します。
●キッズ・アート・キャンプ山形2012
会期：8月3日（金）～5日（日）
会場：東北芸術工科大学
対象：福島県南相馬市在住の小学生・中学生とそのご家族
○演劇「てぶくら」公開公演
日時：8月5日（日）14:30～
会場：こども芸術大学こども劇場
演者：南相馬の子どものご家族、本学学生など
入場：無料 / 一般の方も観覧可能です / 申込不要
お問合せ：東北復興支援機構 TEL:023-627-2218

8.4

ひかり絵で作るオリジナルバッグ

アーティストのRicoさんをお招きし、光をあてると絵が浮かびあがる、ひかり絵のバックをつくるワークショップを開催します。作品はお持ち帰りできます。
●Ricoさんひかり絵 ワークショップ
日時：8月4日（土）13:30～15:30（13:00開場）
会場：やまがた藝術学舎
対象：小学3年～中学生、25名（先着順）
参加費：500円（材料費など）
お申込み先：広報室 / 7月31日締切
TEL:023-627-2246
RicoさんURL: http://www.rico-m.jp/

8.5

山形花笠まつりに芸工大チームも参加

山形の夏の風物詩、花笠まつりに芸工大チームもオリジナルの「踊り」と「芸工大桜風吹」で参加します。皆様のご声援、お願いいたします。また会期中は、グラフィックデザイン学科の学生を中心に、花笠踊りの飛び入り参加をお手伝いする「やっしょまかし」も開催予定です。
●山形花笠まつり
日時：8月5日（日）19:20～20:30の間
会場：山形市七日町通り

8.19→8.21

宮城で開催！国際ヒーローサミット

大学院仙台スクール修士生の齋藤祥哉さんが事務局メンバーとして、また大学院仙台スクールの元客員教授の小松澤陽一氏が創設プロデューサーとして関わる、新しいイベントが開催されます。
●宮城国際ヒーローサミット2012
会期：8月19日（日）～21日（火）
会場：宮城県仙台市を中心に仙台市、石巻市
主催：宮城国際ヒーローサミット2012実行委員会
URL: http://www.miyagihero.jp

8.25

曾谷朝絵さんとアート体験

イラストレーション等で活躍する曾谷朝絵さんをお招きし、不思議なカタチをした半透明のフィルムを大きな窓ガラスに貼って、一つ一つの作品をつくるワークショップを開催します。
●曾谷朝絵 ワークショップ
日時：8月25日（土）16:00～19:00（15:30開場）
会場：やまがた藝術学舎
対象：15歳迄の子どものご両親、25組（先着順）
参加費：1組500円
持ち物：懐中電灯（お手持ちの物）
お申込み先：広報室 / 7月31日締切
TEL:023-627-2246
曾谷さんURL: http://www.morning-picture.com/

8.31

芸工大を職場にしてみませんか？

東北芸術工科大学では、私たちと共に大学運営に関わっていただく事務職員を若干名募集しています。また、文化財保存修復研究センターでは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に関わっていただくポストドクターを公募しています。詳しくは大学ホームページをご覧ください。
●東北芸術工科大学及び附置機関の教職員募集
演者：南相馬の子どものご家族、本学学生など
お問合せ：応募先：東北芸術工科大学総務課
○職員希望者向け説明会
日時：7月21日（土）、8月4日（土）13:00～14:30
会場：本館201講義室
※説明会は任意参加で、両日同じ内容です。
○仙台会場 日時：9月30日（日）13:00～17:30
会場：仙台アエル（仙台市青葉区中央1-3-1）

9.8, 10.8, 11.10

田園地帯で「福しまビクニック」

村山市の田園地帯での農業体験やものづくりを介して、福島と山形のご家族の交流を深めていくビクニックイベントです。福島県から山形県に転入されたご家族が対象です。
●福しまビクニック
日時：9月8日（土）、10月8日（月・祝）、11月10日（土）10:00（現地集合）～15:30（現地解散）
会場：村山市農業文化保存伝承館（村山市大字河島元形島1315-1）
対象：東日本大震災後に福島県から山形県に転入されたご家族
定員：約60名程度 / 先着順 / 実施日の2日前迄にお申込みください。
教材費：1,000円（高校生以下無料 / 保険料含む）
お問合せ：お申込み：東北復興支援機構
TEL:023-627-2218 Email: yk-gokusha@aga.tuad.ac.jp

9.15, 9.16

2013年度AO入試募集

ミニレクチャーやワークショップを通して、受験生の学ぶ姿勢や意欲、将来性などを多角的に評価する、募集人員が多い入試です。募集要項は入試課までご請求ください。
●2013年度アドミッション・オフィス入学試験（AO入試）
出願期間：8月24日（金）～9月7日（金）※最終日消印有効
試験日：9月15日（土）・16日（日）※学科・コースによって選考日程が異なります。

9.15, 9.16

2013年度被災者支援特別入学試験

東日本大震災での被災者のため、2013年4月入学を対象に「東日本大震災被災者支援特別入学試験」を実施します。震災で経済状況が著しく悪化したものの、入学を強く希望する受験生への支援策として、被害状況に応じて入学金・授業料の減免措置を行います。入学後は、学生の成績に応じて、大学在籍期間の最大4年間分の授業料が免除となります。詳しくは入試課までご確認ください。
●2013年度東日本大震災被災者支援特別入学試験
出願期間：8月24日（金）～9月7日（金）※最終日消印有効
試験日：9月15日（土）・16日（日）※AO入試と同日程です。学科・コースによって選考日程が異なります。

9.22, 9.23

今年はsupernova! 「芸工祭2012」

学生が様々なイベントや作品を準備して、学生自身も楽しみながら広く皆様をお迎えする東北芸術工科大学 大学祭「芸工祭2012 supernova」を開催します。模擬店や作品展、サークルパフォーマンスなどイベントも盛り沢山です。是非ご来場ください。
●芸工祭2012 supernova
日時：9月22日（土）・23日（日）10:00～20:00
会場：東北芸術工科大学キャンパス

9.29, 9.30

東京、仙台で保護者会懇談会を開催

在学生保護者と学科教員との情報交換や相談、交流を深める保護者会懇談会を、6月の山形に続いて東京、仙台でも開催します。ご都合のつく保護者の方は、最寄りの会場へご参加ください。詳しい内容は、保護者の方へ別途郵送をいたします。
●2012年度 保護者会懇談会
○東京会場 日時：9月29日（土）13:00～17:00
会場：東北芸術工科大学 外苑キャンパス（港区青山1-7-15）
○仙台会場 日時：9月30日（日）13:00～17:30
会場：仙台アエル（仙台市青葉区中央1-3-1）